

チュニジア（2023年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在チュニジア日本国大使館](#)

1. 2021年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

1.2021年度日本語教育機関調査結果

| 機関数 | 教師数 | 学習者数 | | | | | | | | |
|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|---------|--------|
| | | 合計 | 初等教育 | | 中等教育 | | 高等教育 | | その他教育機関 | |
| | | | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 2 | 4 | 170 | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 170 | 100.0% |

（注）2021年度日本語教育機関調査は、2021年9月～2022年6月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

2.日本語教育の実施状況

全体的状況

沿革

チュニジアにおける日本語教育は、1977年にブルギバ現代言語研究所（Institut Bourguiba des Langues Vivantes、現在はチュニス・エル・マナール大学（Université de Tunis el Manar）に所属する）にてJICAの派遣する海外協力隊（日本語教師）によって開始されたが、1993年に協力隊派遣が一旦終了したため、日本語講座も閉講した。その後、1999年に同研究所でアラビア語を学んでいた日本人留学生が、一般社会人及び学生を対象とした日本語教育を開講した。以降、現在まで継続的に日本人の教師が日本語を教えており、2022年からは海外協力隊の派遣も再開され、2024年3月1日時点、1名の海外協力隊員が同研究所で日本語を教えている。

2000年頃にカルタゴ大学ボルジュ・セドリア先端科学技術学院（Ecole Nationale des Sciences et Technologies Avancées de Borj Cédria（ENSTAB））にて日本語クラスが開講し、現在でも日本語が教えられて

いる。2002年にはカルタゴ大学外国語研究所(Institut Supérieur des Langues de Tunis, Université de Carthage)においても日本語教育が開始されたが、資金不足により2008年を最後に中断した。

そのほか、現在は日本語教師不在により中断しているが、エル・マナール大学チュニス国立技術学校(Ecole Nationale d'Ingénieur de Tunis (ENIT)) (2014年開講)やエル・マナール大学医学部(2017年開講)でも日本語教育が実施されていた(単位や学位を取得できるものではなく、クラブ活動に近い形)。

背景

チュニジアは伝統的に親日的な国であり、マンガやアニメをきっかけとして日本文化に関心を持ち、日本語学習を希望する者が多い。

特徴

訪日経験や語学学校での学習を通じて日本語を学び、比較的高い日本語能力を有する者もいるが、指導可能な人材に限られており、中級者以上が継続して学習し、日本語能力を高める環境が整っていないことが課題である。一方で、インターネットを活用して独学で日本語を学ぶ者もあり、中には日本語能力試験(JLPT) N1レベルの者もいる。

最新動向

チュニジアで日本語教育を行っている公的教育機関は、カルタゴ大学ボルジュ・セドリア先端科学技術学院(Ecole Nationale des Sciences et Technologies Avancées de Borj Cédria (ENSTAB)) (2000年頃開講)とブルギバ現代言語研究所(1977年開講)である。このほか2017年より、チュニス市内にある私立のビジネス・スクール(First Leaders Consulting)で日本語教育が開講された。

教育段階別の状況

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

カルタゴ大学ボルジュ・セドリア先端科学技術学院(Ecole Nationale des Sciences et Technologies Avancées de Borj Cédria (ENSTAB))にて、選択科目として日本語クラスが開講しており、チュニジア人教師によって日本語教育が実施されている。

学校教育以外

ブルギバ現代言語研究所では、社会人や一般のチュニジア人を対象にした日本語講座が開設されている(学位の付与はない)。4年終了時に行われる試験の合格者には、ブルギバ現代言語研究所の卒業証明書が授与される。

2017年10月からチュニス市内にある私立のビジネス・スクール(First Leaders Consulting)で日本語教師の

資格を有する日本人講師による日本語教育が開講された。

3.教育制度と外国語教育

教育制度

教育制度

9-4 制。

基礎教育（初等学校と下級中等学校に分かれるが、一貫課程）が6歳からの9年間、高校（上級中等学校）が4年間で、そのほかに職業適性証 Certificat d'Aptitude Professionnelle(CAP)の取得につながる2年間の職業訓練校と技術者になるための2年間の高等技術専門学校がある。高等教育は大学（3～7年）、高等技術大学（3年）などがある。

教育行政

基礎教育、高等学校は教育省が管轄する。

大学、高等技術大学は高等教育・学術研究省が管轄する。

職業訓練校と高等技術専門学校は職業訓練・雇用省が管轄する。

言語事情

公用語はアラビア語。

都市部ではフランス語も一般的に広く使用されている。

外国語教育

通常基礎教育3年生（8歳程度）からフランス語（第一外国語）教育が始まる。

英語（第二外国語）は以前は基礎教育4年生（10歳程度）から教育が開始されていたが、現在は、6年生（12歳程度）から開始されるようになっている。

外国語の中での日本語の人気

あらゆる世代で日本語を学ぶ者がいる。それぞれ関心分野は異なるが、若年層はマンガやアニメ、音楽（アニソン）を通して日本語を知り、中高年層はテレビ放映されていた日本のアニメを通して親しみを持つ。こうした人々の中には日本語学習に関心を持つ者もいる。

大学入試での日本語の扱い

大学入試で日本語は扱われていない。

4.学習環境

教材

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

『みんなの日本語』スリーエーネットワーク（スリーエーネットワーク）を使用している。（ENSTAB）

学校教育以外

- ・『みんなの日本語』スリーエーネットワーク（スリーエーネットワーク）を使用している。（ブルギバ現代言語研究所（2年生から4年生）、First Leaders Consulting）
- ・『まるごと 日本のことばと文化』（三修社）を使用している。（ブルギバ現代言語研究所（1年生））
- ・『いろいろ 生活の日本語』（国際交流基金）を使用している。（ブルギバ現代言語研究所）

IT・視聴覚機材

日本語教育に IT・視聴覚機材は使用していない。

5.教師

資格要件

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

資格要件は特にない。

学校教育以外

現地人講師は、日本語または日本文化などの博士号の学位取得が必要（博士号を有していない場合、契約講師として数年は勤務可能）とされているが、職階により資格要件は異なる。日本人講師は、学部または大学院で「日本語教育に関する教育課程」を専攻していれば、教授が可能。

日本語教師養成機関（プログラム）

日本語教師養成を行っている機関、プログラムはない。

日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

現在 4 名の日本人講師が以下の教育機関で教授している。

- ブルギバ現代言語研究所（2 名）
- First Leaders Consulting（1 名）

なお、First Leaders Consulting には 1 名の講師が常時生徒に教授しており、その他の臨時講師は 3 ヶ月から 1 年程度の期間付で日本語を教えている。

教師研修

現職の日本語教師対象の研修はない。

6. 教師会

日本語教育関係のネットワークの状況

日本語教育関係のネットワークはない。

7. 日本語教師派遣情報

国際交流基金からの派遣

国際協力機構（JICA）からの派遣

JF、JICA からの派遣は行われていない。

その他からの派遣

（情報なし）

8. シラバス・ガイドライン

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムはない。チュニジアで日本語を教えている教師はそれぞれのやり方で教授している。

9. 評価・試験

2020 年より日本語能力試験（JLPT）が開始されている。第 2 回目となった 2021 年の試験ではチュニジアで初めての N1 レベル合格者が出ている。第 4 回目の試験では N1 レベルに初めて複数（2 名）の合格者を出した。

10.日本語教育略史

| | |
|--------|--|
| 1977年 | ブルギバ現代言語研究所（Institut Bourguiba des Langues Vivantes, Université de Tunis el Manar）で海外協力隊の日本語教師によって日本語教育が開始（1993年に協力隊の派遣は一旦終了）。 |
| 1999年 | ブルギバ現代言語研究所にて日本人留学生により日本語講座が再開 |
| 2000年頃 | カルタゴ大学ボルジュ・セドリア先端科学技術学院（ENSTAB）で日本語教育が開講 |
| 2002年頃 | カルタゴ大学外国語研究所（Institut Supérieur des Langues de Tunis, Université de Carthage）において日本語教育が開講（現在は中断） |
| 2004年 | カルタゴ大学環境テクノロジー学研究所にて日本語講座開講（現在は中断） |
| 2014年 | エル・マナール大学チュニス国立技術学校（Ecole Nationale d'Ingénieur de Tunis（ENIT））にて日本語教育開講（現在は中断） |
| 2017年 | エル・マナール大学医学部にて日本語教育が開講（現在は中断） |
| 2017年 | チュニス市内にある私立のビジネス・スクール（First Leaders Consulting）にて日本語教育が開講 |
| 2020年 | 日本語能力試験（JLPT）実施開始 |